

季刊

博物館だより

FUKUSHIMA MUSEUM
QUARTERLY

URL <http://www.general-museum.fks.ed.jp>

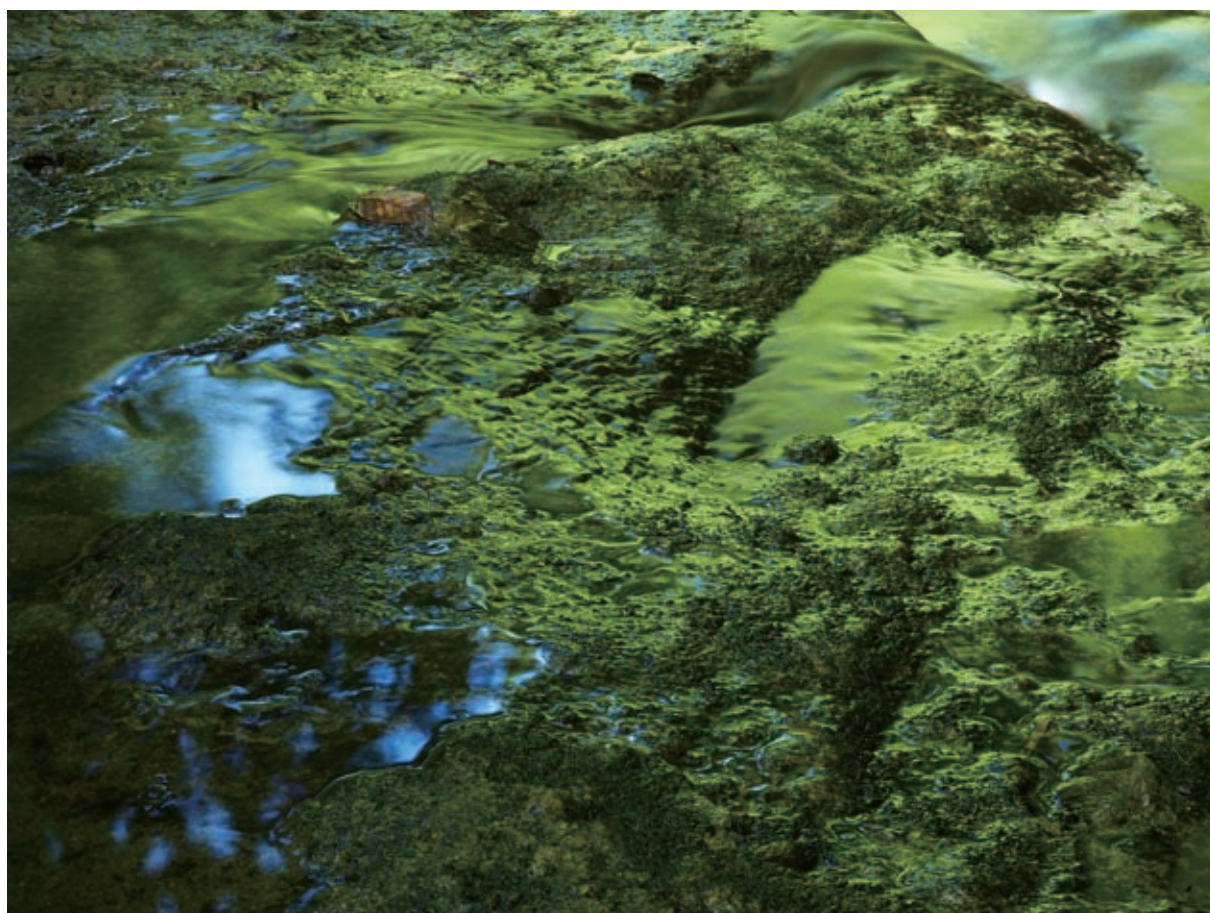
112

企画展

写真展

「東北—風土・人・暮らし」

福島県立博物館



春の企画展

「写真展 東北―風土・人・暮らし」

会期 平成二六年四月一九日(土)～五月二八日(日)



JAPAN FOUNDATION
国際交流基金



芳賀日出男「延命の舞 毛越寺 岩手県平泉」
Longevity Dance, Motsuji Temple, Hiraizumi, Iwate 1979

本展は、宮城県出身の写真評論家飯沢耕太郎氏の監修のもと、東北にゆかりのある世代も表現もさまざまな10組の写真家による作品で構成されます。

五〇年代～六〇年代の農村を撮影した千葉禎介、小島一郎、東北各地の民俗儀礼や祭り、強い土着性に迫った芳賀日出男、内藤正敏、田附勝、東日本大震災の被災も含め自らの個人史となつた故郷の光景を重ね合わせる大島洋、畠山直哉、東北の美しい自然にカメラを向ける林明輝、縄文時代の遺跡を通じて日本人の精神の起源を探る津田直による作品、そして伊藤トオルをリーダーに宮城県仙台市の「無名の風景」を集団で撮影した「仙台コレクション」のシリーズです。

東日本大震災後、被害のようすは多くのメディアで報道されましたが、本展は、被害状況のレポートではなく、さまざまな年代の、異なる表現をもちいた写真家の視点を通して奥深い東北の魅力を外の人に伝えることを目指しました。

国際交流基金によって企画された本展は、北京・イタリア・オーストラリアなど五年間四〇都市を巡回し、東北の豊かな自然や独特の祭りのようすを世界に発信します。

今回は一時日本に里帰りする機会に福島県立博物館と岩手県内で公開されることになりました。

○会 期：二〇一四年四月一九日(土)～五月二八日(日)

○出品点数：一〇作家、一三三三点

○出品作家：千葉禎介・小島一郎・芳賀日出男・内藤正敏・大島洋・林明輝・田附勝・仙台コレクション・津田直・畠山直哉

○観覧料：一般・大学生 五〇〇円(四〇〇円)、高校生 二〇〇円(一五〇円)、小・中学生 一〇〇円(八〇円)

※()は二〇名以上の団体料金

○主 催：福島県立博物館・国際交流基金

○企画協力：日本写真協会

○キュレーター：飯沢耕太郎(写真評論家)

○関連事業：記念対談「縄文の再生―東北―風土・人・暮らし」展を巡って(飯沢耕太郎(本展監修者)・写真評論家)

田附勝(写真家) × 赤坂憲雄(福島県立博物館長)

四月一九日(土)

一三時三〇分～一五時〇〇分

福島県立博物館講堂

参加費無料





田附勝「鹿撃たれる 岩手県釜石市 2009年11月」
A Deer Shot Dead, November 2009



畠山直哉「気仙川 2003年8月23日」
Kesengawa, 2003/08/23

特集展「東北の伝承切り紙」関連行事

●展示解説会

三月九日(日)午後一時半から特集展「東北の伝承切り紙」の展示解説会が行われました。今回の特集展は千葉惣次さんが収集した宮城県、岩手県、福島県で神社が正月飾りとして氏子に配る切り紙のコレクションの展示会です。その所蔵者の千葉惣次さんと千葉さんの著書「東北の伝承切り紙」に美しい写真を提供した大屋孝雄さんのお二人をお招きしての解説会でした。特集展ということで展示図録はもちろんポスターもチラシも印刷できないという中で、



実演する工藤さん(手前)と説明する千葉さん

詳しい話をお聞きする良い機会になればという意図もありました。

ところが、この日宮城県南三陸町志津川の上山八幡宮の宮司の工藤祐允さんがいらっしやって急遽展示室前で切り紙の実演をしてくださることになりました。実演場所の背後には工藤さんからいただいた切り紙が展示してあるという、格好の場所でした。

千葉さんの話だと、切っているところは本来見せるものではないのですが、今回は特別にお願いしたということでした。半紙を重ねて二つに折り、用意した「鯛」と「扇」の型を使つての切り抜きでした。上山八幡宮はその名前のおり志津川の中では小高く「山」の上にあり、ここまでは津波も来るといふ例はないので安心していただけそうですが、その二階まで津波に浸かってしまい、現在は仮設住宅にお住ま



切り紙について語る千葉さん(左)と大屋さん(右)

いだということでした。集まった方々はときおり質問をしたりしながら、どなたも熱心に工藤さんの技を見入っていました。網状の部分を残して切り終えました。

その後千葉さんと大屋さんがそれぞれ自分と切り紙との出会いなどについて語り、会場を移動しながら説明していただきました。参加者からは質問も多く、よい雰囲気の中で解説会を終えることができました。

山形県の酒田からわざわざこの日のために列車を乗り継ぎ六時間かけていらっしやったという熱心な方をはじめ、どの方も東北の切り紙に魅了され惹きつけられるようにしてこの場に集った方ばかりで、この展示会を開催して本当によかった、と心から思えるひと時でした。(民俗担当 榎 陽介)



切り紙の解説をする千葉さん

Q…東日本大震災や東京電力福島第一原子力発電所の事故をテーマにした写真は選ばれていないのですか。

A…この展覧会を企画するきっかけは、言うまでもなく東日本大震災です。死者・行方不明者が二万人に迫るといふ未曾有の被害をもたらした、福島第一原子力発電所の事故によって、多くの住民が避難を余儀なくされました。ですが被災状況は克明に報道されていて、東北地方がどんな歴史を持ち、どういう人々がどんなふう暮らしているのかは、ほとんど伝えられてこなかったのではないかと思います。

「写真展 東北―風土・人・暮らし」の見どころは？

「東北―風土・人・暮らし」展は、いわば震災や津波がもたらした非日常性と、それ以前の日常的な暮らしとの間の空白を埋めようとする試みです。あえて震災後の被害の写実は外しました。被災地の写

真は既にたくさん流通しているもので、あらためて出品作に加える必要がないと判断したことが一つ。もう一つは、今回の展示では東北の歴史性、つまりその成り立ちの部分にスポットを当てたためです。

Q…スポットを当てられた東北の成り立ちが作品のどんなところに現れているのでしょうか。

A…作品から浮かび上がってきたのは、東北の精神的・文化的な風土の中に色濃く残る縄文文化の重要性です。縄文文化は日本列島に約一万五千～三千年前に花開いた文化で、採集・狩猟を中心に独特の縄目模様を持つ縄文土器を製作するなど、きわめて豊かな精神性を保っていました。東北地方はその縄文文化が最も強固に根づいた土地だったのですが、その後は未開発の地域として、中央政権の支配下に置かれました。ですが超自然的な存在と交流しつつ、その生命力を土器製作や宗教的な儀式を通じて表現していく縄文文化の伝統は、東北地方に受け継がれ

ていると思います。



大島 洋「幸運の町大迫町」1979年

今回展示する写真家たちの作品を見ると、その縄文の精神がさまざまな形であらわれているように見えます。芳賀日出男や内藤正敏の民間信仰の儀礼を撮影した写真はもちろんですが、大島洋や島山直哉の写真の中の日常的な場面にも、林

Q&A

回答者

写真評論家・本展監修者

飯沢 耕太郎

明輝や津田直が撮影した、あたかも縄文人が目にしていたような美しく神秘的な風景にも、その伝統はいきいきと息づいています。そのことを、写真展を構成していく過程であらためて確認することができました。

Q…この写真展から見る東北の魅力とはどのようなものなのでしょうか。

A…「東北」すなわちEast Northという地名は、きわめて示唆的です。それは中央の政治や文化とは一定の距離を置いた、辺境の地であることを示しています。その意味では「東北」というのは、日本の一地方を指すだけでなく、普遍的な概念として成立するのではないかと。ヨーロッパにとつての「東北」はロシアであり、ロシアにとつての「東北」はシベリアです。中央がグローバリズムによって均質化し、硬直したがんじがらめの状況に陥っていく時、「東北」の辺境性はむしろ自然と交流し、一体化した豊かな文化を再生していく契機となっていくのではないのでしょうか。

協力 国際交流基金



小島一郎 つがる市稲垣付近 1960年

いいたてミュージアムという試み

川延 安直 美術担当

東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故後の福島で博物館ができることはなんだろう。自問自答する中、昨年の春に参加したいいいたてまでの会のミーティングで、一つの構想が立ち上がったきました。いいたてまでの会は、原発事故の被害により全村避難を余儀なくされている飯館村を支援する任意団体で、飯館中学校のふるさと学習や仮設住宅での活動をサポートしています。

ミーティングには多摩美術大学教授で美術評論家・写真家でもある港千尋さんも参加しました。飯館村では除染作業が進んでいます。村民のみなさんが帰村できる用途は立っています。避難生活も三年を過ぎ、このままでは、村の記憶や歴史が消えてしまうという危機感をみなさんが持ち始めていました。

何とか飯館村の記憶・歴史を保存・記録し未来に手渡すことができないだろうか。議論はそんな方向に向かって行きました。そして「いいたてミュージアム」の構想が生まれたのです。歴史・保存・記録、こういうことは博物館の得意分野です。福島県立博物館の私たちもお手伝いさせていただきますとお願いしました。

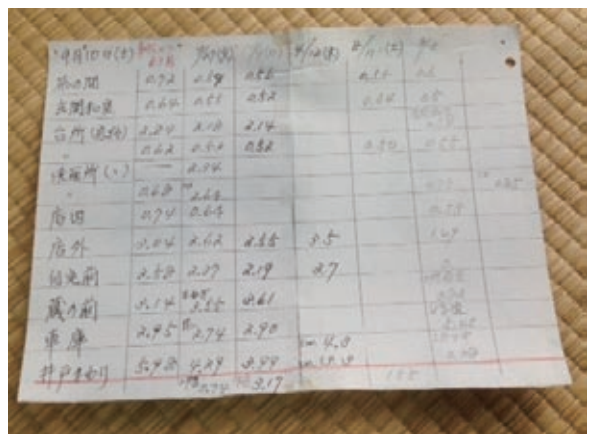
さて、どんなミュージアムを目指すのか。もちろん立派な建物を建てることは出来ません。そこで、「い

いたてミュージアム」というプロジェクトをスタートすることにしました。日が経つに従って飯館村の記憶は薄れていきます。調査と資料の収集、保存は早く進めなければなりません。

では、どこで、どのような資料を収集し保存するのか。ここからが、一般の博物館の活動とは少し異なります。「いいたてミュージアム」は飯館村の方にお会いすることを大事にします。そして、「古いモノ」「大事なモノ」「歴史的なモノ」にまつわるお話しをお聴きする中から浮かび上がってくるその方の人生に添った資料をミュージアムにいただけないかご相談します。お聴きしたお話しといただいたモノがセットになって生き活きた語りを持つ資料となります。

昨年夏から実際に活動が始まりコレクションが集まってきました。この紙片(1.)は飯館村のAさんのご自宅茶の間に貼ってありました。Aさんの奥様がメモしておいたもので、茶の間・台所・井戸まわり等の欄に書かれている数値は空間線量です。原発事故後の飯館村が置かれていた状況と住民のストレスを雄弁に語っています。

瓶詰めになっっているのはスズメバチです(2.)。Nさんは、飯館村の冷涼な気候に合わせてソバの栽培を始めました。ソバを良く実らせるためには受粉を効率的に行わなければならず、そのために蜂蜜採取も兼ねてニホンミツバチの飼養も始めました。そのニホンミツバチを攻撃してきたのがこのスズメバチです。Nさんが網で捕らえて焼酎漬けにしました。原発事故前のものだから飲めるよ、とNさんは悲しそうに笑っていました。この瓶詰には、飯館村の豊かな自



1.



2.

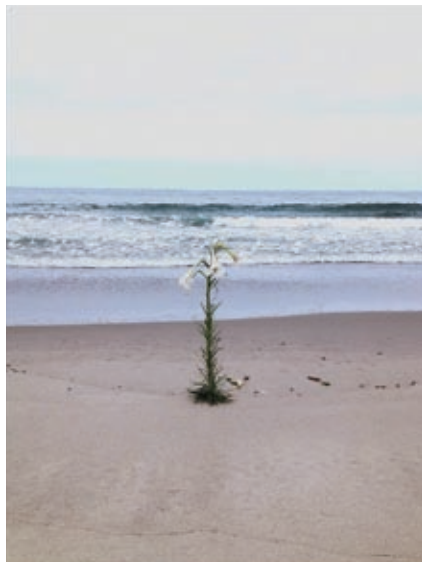
然、生態系が集約されると言えないでしょうか。いいたてミュージアムのコレクションは、飯館村の記憶と歴史を未来につなぐ「大事なモノ」として、今後、県内外で紹介される計画だそうです。厳しくも豊かな自然とともにあった一つの村の今・昔が伝えることの重さはとても重く重い。その重さを伝える「いいたてミュージアム」をこれからもお手伝いしていきます。

写真展 「福島を撮る」

「はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト」
 〈福島写真美術館プロジェクト〉成果展

会 期：平成26年4月15日(火)～5月25日(日)
 会 場：福島県立博物館部門展示室「歴史・美術」
 文化庁平成25年度 地域と共働する美術館・歴史博物館創造活動支援事業

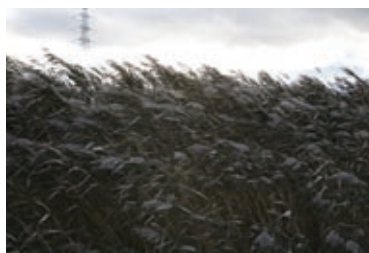
「はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト」では、福島県立博物館が事務局をつとめ県内各地で6プロジェクトを展開しています。その一つ「福島写真美術館プロジェクト」の成果をご紹介します。



片桐功敦 (撮影地 南相馬市)



小野良昌 (撮影地 福島市飯野町)



赤阪友昭 (撮影地 南相馬市)

企画展 予告

「アイヌの工芸
 ―東北のコレクションを中心に―」

平成二六年度の夏は、当館では初めてとなるアイヌに関する企画展を開催します。北海道の公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構が毎年国内外で開催しているアイヌ工芸品展の一環で、同財団と帯広百年記念館との共催となります。

現在、アイヌの工芸品や民具のコレクションは、北海道だけでなく国内外の多くの博物館に収蔵されており、様々な経緯で各地に伝えられています。本展覧会では、主に東北地方の博物館などに収蔵されている工芸品や民具などを中心に、それらの経歴や収蔵経緯を含めてご紹介いたします。当館が保管するアイヌ関係資料のほか、会津と北海道との歴史的なつながりを示す資料も公開する予定です。



アットウシ
 (当館寄託・渡部つとむコレクション)

■会期：七月一九日(土)～九月一五日(月・祝)

企画展

※企画展料金が必要です

写真展「東北―風土・人・くらし」
会期 4月19日(土)～5月18日(日)

◎企画展関連

写真展「東北―風土・人・くらし」記念講演会

飯沢耕太郎・田附 勝・赤坂憲雄対談「縄文の再生」
「東北―風土・人・くらし」展を巡って

日時 4月19日(土) 13時30分～15時
会場 福島県立博物館 講堂

講師 写真評論家 飯沢耕太郎さん

写真家 田附 勝さん 館長 赤坂憲雄

特集展

※常設展料金でご覧いただけます

「磐越西線100年のあゆみ」

会期 5月27日(火)～7月6日(日)

テーマ展

※常設展料金でご覧いただけます

「ふるさとの考古資料4【大熊町】遺跡探訪」

会期 H25年6月18日(火)～H26年5月11日(日)

写真展「福島を撮る」はま・なか・あいつ文化連携プロ

ジェクト(福島写真美術館プロジェクト) 成果展

会期 4月15日(火)～5月25日(日)

「おらほの碑」はま・なか・あいつ文化連携プロジェクト

(岡部昌生フロッタージュプロジェクト) 成果展

会期 6月7日(土)～7月13日(日)

「ふるさとの考古資料5【富岡町】遺跡探訪」

会期 6月17日(火)～H27年5月10日(日)

ポイント展

※常設展料金でご覧いただけます

「安積伊東一族ゆかりの館口」

会期 4月1日(土)～5月30日(金)

「喜多方市泉福寺の大日如来像」

会期 4月5日(土)～5月6日(火)

「老中奉書でみる会津藩の白馬警備」

会期 4月19日(土)～5月30日(金)

「読み解き『戊辰戦記絵巻物』」

会期 4月19日(土)～H27年2月1日(日)

「近藤家の婚礼用具」

会期 5月8日(木)～7月2日(水)

館長講座

「はじまりの東北学」①

日時 4月17日(木) 13時30分～14時30分

会場 福島県立博物館 講堂

講師 館長 赤坂憲雄

「はじまりの東北学」②

日時 5月15日(木) 13時30分～14時30分

会場 福島県立博物館 講堂

講師 館長 赤坂憲雄

「はじまりの東北学」③

日時 6月19日(木) 13時30分～14時30分

会場 福島県立博物館 講堂

講師 館長 赤坂憲雄

講演・講座

※は要申込

◎保存科学講座

※「博物館の裏側!保存科学の仕事のぞこう」

日時 4月26日(土) 13時30分～15時

会場 福島県立博物館 実習室・展示室

講師 学芸員 杉崎佐保恵

◎実技講座

※「小旗を作ろう」

日時 5月5日(月・祝) 13時30分～15時

会場 福島県立博物館 実習室

講師 伝統技術保持者 大野青峯さん 大野久子さん

◎ギャラリートーク

「展示資料から見る古代のふくしま」①

日時 5月6日(火・振替) 13時30分～14時

会場 福島県立博物館 総合展示室「古代」

講師 学芸員 荒木 隆

ミュージアムイベント

「玄如節と会津の民謡」

日時 6月14日(土) 13時30分～15時

会場 福島県立博物館 エントランスホール
出演 玄如節顕彰会のみなさま

実演

「大堀相馬焼の絵付け」

日時 6月21日(土) 13時30分～15時

会場 福島県立博物館 実習室

出演 大堀相馬焼窯元 休閑窯 半谷みどりさん

やさしい展示解説

- ・展示解説員による常設展総合展示の案内です。
- ・5月10日(土)より開始します。
- ・毎週土曜日、日曜日の10時30分と14時から30分ほど行います。

*要申込の行事は基本的に開催日の1ヶ月前から募集を開始しますが、異なる場合もありますのでお問い合わせください。

*その他、行事等の詳細につきましては、月行事予定やホームページをご覧ください。

4月～6月の休館日

4月7日(月)・14日(月)・21日(月)・28日(月)
5月7日(水)・12日(月)・19日(月)・26日(月)
6月2日(月)・9日(月)・16日(月)・23日(月)
24日(火)・30日(月)